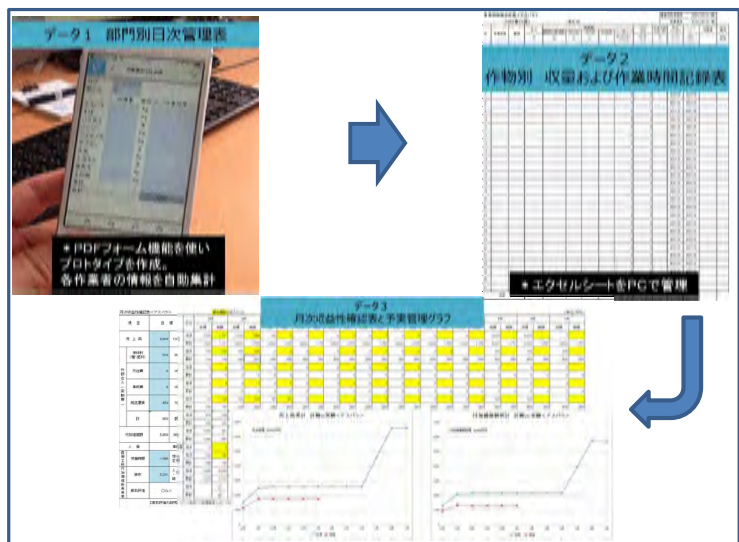




代表者名	江川 正道	資本金	23.65百万円
設立年	2009年	売上高	28.11百万円（2018年8月期）
事業内容	露地野菜（アスパラガス、そば等）、農地整備受託事業		
経営規模	経営面積 15ha、作業受託 20ha		
従事者数	8人（役員2名、常時雇用4名、臨時雇用2名）		

経営課題全般

創業以来、露地栽培（アスパラガス、そば等）・農地整備受託を中心に確実に事業を拡大してきたが、**農地整備受託の低迷により赤字決算**となってしまった。そのため『**今後は露地野菜を中心に事業拡大を図り、法人として利益を確保できる体質強化、農業を通じて地元活性化に取り組みたい**』という、社長の目標を汲み取り、以下の課題解決に向けたコンサルテーションを実施した。

<目標>

- ・赤字体質から脱却し事業規模を3倍にしたい
- ・地域雇用の拡大、新規農業者の就農支援、耕作放棄地の農地再生

<課題>

- 1) 赤字体質から脱却し利益確保
- 2) 事業別、産物別の収支が明らかになっていない
- 3) 労働生産性の向上

専門家コメント

本支援先は、どんぶり勘定や天候により変動する収量、売価などの不安定要素を基とした数値目標を経営計画とすることが最大の弱点であった。また、これまで作物ごとの収量・販売額、年度売上高、土壌分析データなどの各種データを取得していたが、同データを活用した比較検討・経営改善手法が確立されていなかった。

今般、どんぶり勘定からの脱却に向け、「**経営計画の実現**」「**労働生産性の向上**」に資する新たな2つのツールを作成・導入した。同ツールにより、**収量および作業時間の管理、計画対比での進捗管理の仕組み、施肥量算出が標準化**がされ、継続的に経営改善に取り組む体制が構築できた。

①課題の抽出

課題①日次・月次での計画対比の進捗管理の仕組みの導入（結果集計からの脱却）

赤字体質になっている要因として、**結果集計（収量・販売額などの結果が出てから事後的に集計する）によるデータ収集**となっていた。結果が出るまで収支が分からないという、所謂どんぶり勘定の経営になっているため、結果集計としない、進捗を管理をする仕組みが必要である。

課題②肥料散布量算出の標準化（労働生産性の向上）

社長へのヒアリングを通じて、肥料散布量の算出は土壌分析データを元に**社長にしか算出できない体制**になっていることが明らかになった。作業効率化のためには、**誰もが実施できる標準化された仕組み**作りが必要である。

②データ利活用の提案

<取得データ>

- ・栽培系：土壌分析データ
- ・業務系：生産物ごとの作付け面積・販売額、肥料散布量の算出に要するデータ（社長の感覚作業時間）、H29年度売上高等計数データおよびH30年度計数目標データ

課題への取り組みとして、以下の提案を行なった。

提案①進捗管理による経営計画の実現（経営の見える化）

- ・売上高等計数データを**日次月次で計画対比で進捗管理**できる仕組み（「部門別日次管理表」「作物別収量および作業時間記録ツール（プロトタイプ）」）の導入により、効率的に日々の収益見える化を図る。

提案②肥料散布作業の標準化

肥料散布支援ツールを導入、同ツールにより、①土壌pHから（窒素・リン酸・カリ）を適正値にするため不足値を算出、②更に堆肥中の含有割合から必要袋数を算出することで、**作業の標準化・社長の工数を軽減**を図る。

③改善結果および今後の課題・展開

■改善結果

<提案①>「部門別日次管理表ツール（スマホ版プロトタイプ・データ1）」により**日次管理の仕組み**、また、データ1の入力データをメールで事務所PCへ飛ばすことによる「**作業別収量および作業時間記録表（PC版プロトタイプ・データ2）**」との連動が可能となり、**いつでも作業別の収量および作業時間の把握可能な仕組み**が構築できた。

・更に、データ2と今回リニューアルした「**月次収益性確認表と予算管理グラフ（PC版プロトタイプ・データ3）**」を連携させることにより、**いつでも収支と限界利益が把握できること**となり、作物毎の収益状況を元にした**収益に資する作付計画の策定等の迅速な経営判断が可能**となる体制が構築できた。

<提案②>「**肥料散布支援ツール（スマホ版プロトタイプ）**」により**適正施肥量と施肥実績のデータに基づく**

肥料散布量の算出が可能となり、社長の**工数の減少**や社員の**指示待ち時間が解消**され、労働生産性が向上した。（データ4）

■改善結果（見込み）

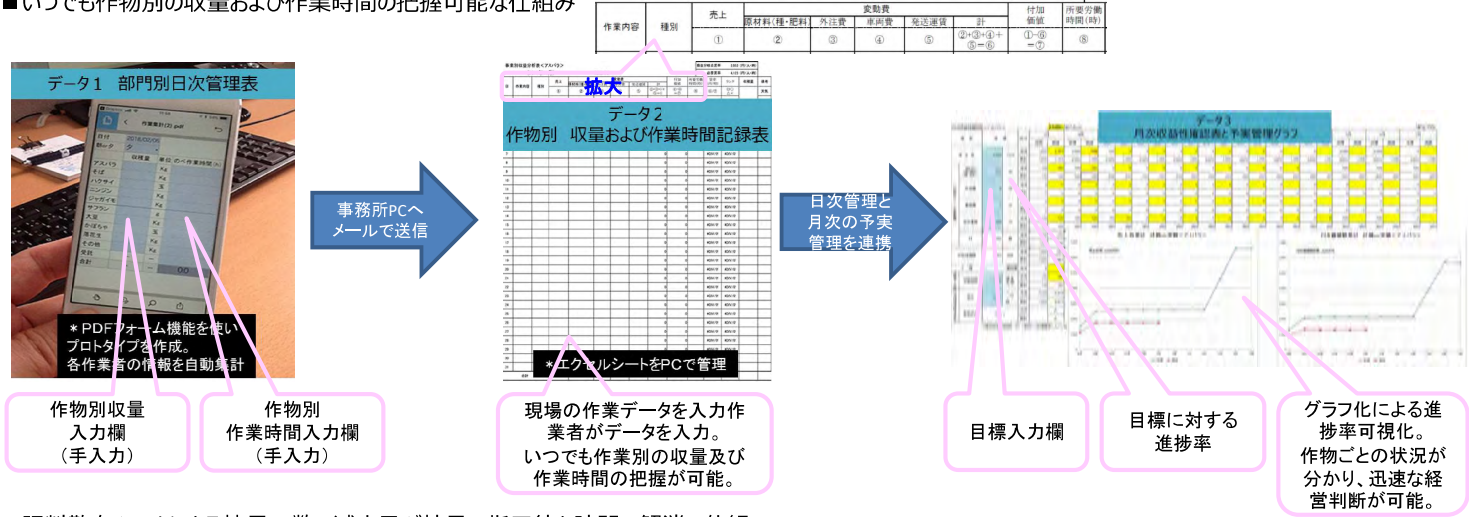
- ・日次、月次、年次管理および予算管理が可能になったことで、**目標管理による社員育成、新規就労者育成の計画が可能**になる。

■今後の課題・展開

・本支援により新たに導入した各種ツールの活用により、収量や作業時間、計画対比の進捗管理、収益状況の見える化を図り、健全な経営（黒字体質）の実現に向けた生産体制を構築し、経営規模の拡大、冬季の事業開発に繋げていただきたい。



■いつでも作物別の収量および作業時間の把握可能な仕組み



■肥料散布ツールによる社長工数の減少及び社員の指示待ち時間の解消の仕組み

